

情報収集衛星の開発・運用事業費（内閣衛星情報センター）

6年度予算案 622.5億円 5年度補正予算額 275.0億円
 （5年度予算額 625.1億円）

事業概要・目的

- 外交・防衛等の安全保障及び大規模災害等への対応等の危機管理のために必要な情報の収集を主な目的とした情報収集衛星の開発等を行い、政府の情報機能を強化します。主に以下の施策を実施します。
 - （1）光学・レーダ衛星各4機及びデータ中継衛星を加えた機数増により、10機体制が目指す情報収集能力の向上を早期に達成するため、着実に衛星開発を進めます。
 - （2）即時性の向上やデータ量の増加に対応した地上システムの開発を進めます。
 - （3）情報収集衛星システムの大幅な機能・性能の向上を図るため、重要技術の先行研究開発を進めます。
- 補正予算においては、上記のうち、前倒して着手可能なものについて、着実に開発工程を進め、打上げ遅延リスクを低減します。

資金の流れ

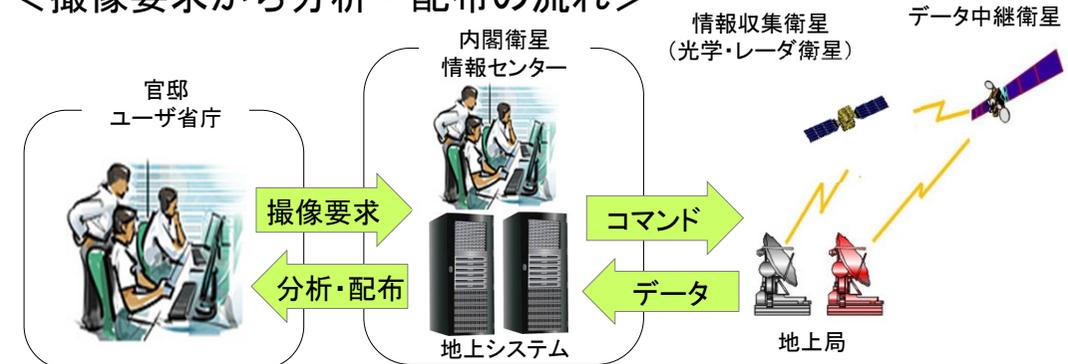


事業イメージ・具体例

＜機数増の概要＞

- ・ 光学・レーダ衛星各4機により、地球上の特定地点を1日に2回以上撮像することが可能。
- ・ 追加する衛星を基幹衛星と異なる時間帯に配備することで、様々な時間帯での撮像が可能。
- ・ データ中継衛星の利用により、伝送時間を大幅に短縮し即時性が向上。

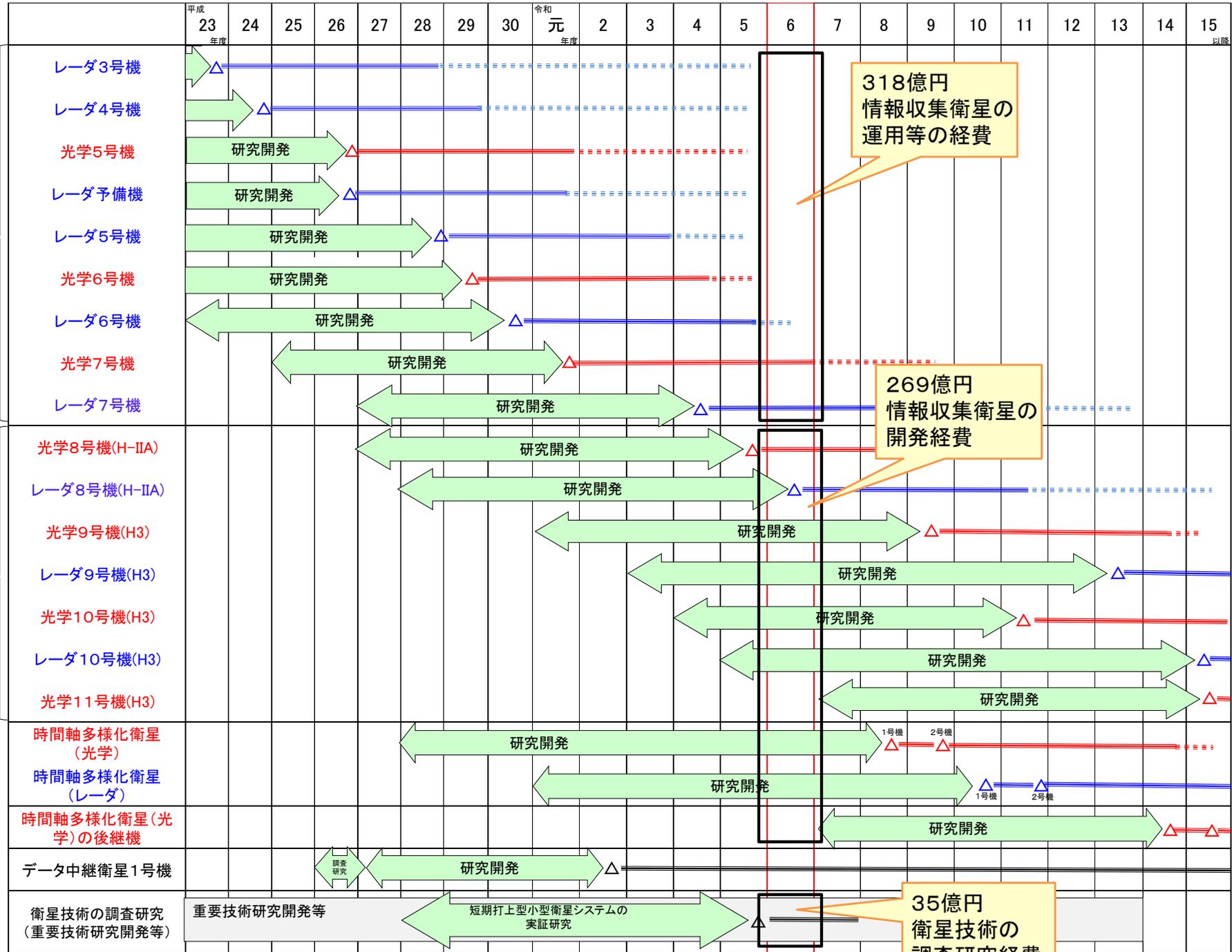
＜撮像要求から分析・配布の流れ＞



期待される効果

- 外交・防衛等の安全保障及び危機管理のために必要な情報の収集を確実にし、安心・安全な暮らしの実現に貢献します。

研究・開発及び打上げスケジュール



現在運用中の
基幹衛星
9機

※レーダ3号機、4号機、
予備機、5号機、光学5号
機は運用見込期間を超過

基幹衛星の
後継機
7機

※光学8号機は初期
運用中

318億円
情報収集衛星の
運用等の経費

269億円
情報収集衛星の
開発経費

35億円
衛星技術の
調査研究経費